

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
【基本目標1】地域の魅力を生かして、経済・産業・交流人口・関係人口の拡大を目指す			
<b>① 釧路らしさを生み出す農林水産業の成長産業化</b>			
<p><b>ア 持続的成長を目指した水産業の振興</b>                      基幹産業である水産業の経営安定に向けた増養殖事業等の推進による水産資源の維持・増大への協力と後継者等の人材育成への支援等を行う。                      また、魚食普及の啓発を積極的に行い、地元の水産資源の消費拡大を図る。</p> <p><b>イ 生産基盤の強化による農業の振興</b>                      農業生産力の一層の向上を図るため、根釧酪農ビジョン等を踏まえ、生産基盤の整備、担い手の確保と育成、営農支援システムの整備、新たな形態による農業経営への支援などを進める。</p> <p><b>ウ 森林資源の循環利用を通じた林業の振興</b>                      全国有数の森林都市である当市では、釧路森林資源活用円卓会議のくしろ木づなプロジェクトをはじめとする取り組みにより、カラマツ等多くの森林資源の有効活用と多面的機能を有する森林の整備を通じた森林資源の循環利用を推進する。</p> <p>【主な事業】                      ・増養殖漁業推進事業                      ・コンブ漁場整備事業                      ・シシャモふ化事業                      ・釧路さけます増殖協力会運営費補助事業                      ・沖合資源増大実験事業                      ・漁業後継者就職支援事業                      ・水産加工業活性化支援事業                      ・くしろプライド釧魚事業                      ・くじらのまちづくり推進事業                      ・農業担い手確保対策事業                      ・農業用排水路整備事業                      ・道営草地整備事業                      ・国営緊急農地再編整備事業                      ・市営牧場整備事業                      ・市有林管理事業                      ・市有林収穫事業                      ・地域材利用拡大・森林整備推進事業                      ・未来につなぐ森づくり推進事業</p>	<p>農林課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営基盤整備のため、3地区における土地改良事業を実施。(道営草地整備事業、国営緊急農地再編整備事業、市営牧場整備事業)</li> <li>・農業担い手対策事業として東京をはじめとする大都市圏で開催される就農相談会にリモートにより参加し釧路市をPRした。</li> <li>・酪農ヘルパー組織への支援や公共牧場の運営・整備を通じた営農支援システムの整備を実施。</li> <li>・市内企業が開始する新たな農業生産法人の取組への支援を行った。</li> <li>・森林資源の循環利用を推進するため森林整備を実施した。(市有林管理事業、市有林収穫事業)</li> <li>・商品開発研究会を開催し、円卓構成企業のうち、木工や設計などを行う若手数人が集まり、新たな木製品開発の検討を行った。</li> <li>・林業事業体向けのスキルアップ研修会を開催した。</li> <li>・地元産木材の利用推進や森林資源循環利用の普及啓発を目的とした木育教室を開催した。</li> </ul> <p>水産課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増養殖推進事業 各漁協が実施する増養殖事業の取り組みに協力し、資源の維持・増大を図った。</li> <li>・コンブ漁場整備事業 コンブ藻場の回復及び資源増大を図るため、益浦・興津地先(4ha)において大型特殊機械による雑海藻除去を実施した。</li> <li>・シシャモふ化事業 漁協が実施するシシャモ増養殖事業への取り組みを支援し、資源の維持・増大に努めた。</li> <li>・釧路さけます増殖協力会運営費補助事業 各種増殖事業を実施する協会の運営を支援し、さけます資源の維持・増大を図った。</li> <li>・沖合資源増大実験事業 漁協が行うハタハタの増養殖事業の取り組みに協力し、資源の維持・増大を図った。</li> <li>・漁業後継者就職支援事業 一級小型船舶操縦士1件、二級小型船舶操縦士1件の資格取得支援を行った。</li> <li>・水産加工業活性化支援事業 マイワシ、スケトウダラなど釧路の魚を中心に、7件の商品開発を実施。地域内にて3件の水産加工品の販売PRを実施。その内、フクハラ(2店舗)にて地元企業の水産加工品フェアを開催した。 市内外で開催される新食品表示制度、水産食品の輸出動向に関するセミナー3件に出席した。</li> <li>・くしろプライド釧魚事業 レシピチラシを市内小売店57店舗に配布した。(年1回、計13,050部) ししゃも干し講習会やくしろ物産まつり等、既存イベントを活用し、試食やチラシ配布したほか、小売店と連携したPRイベントを実施した。その他SNSを活用し、旬の魚情報を提供した。(フォロワー数:1,192人、5月)</li> <li>・くじらのまちづくり推進事業 くじら月間イベントとして鯨食普及キャンペーン(試食配布)、くじら祭り(参加店34店舗、応募総数1,334件)を開催したほか、釧路沖での捕鯨操業への支援、学校給食への鯨肉購入支援を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営基盤整備のために土地改良事業を実施する。</li> <li>・農業担い手対策事業として大都市圏で開催される就農相談会へ参加する。</li> <li>・酪農ヘルパー組織への支援や公共牧場の運営・整備を通じた営農支援システムの整備を実施する。</li> <li>・新たな形態による農業経営への支援を進める。</li> <li>・森林資源の循環利用を推進するため、森林の整備を実施する。</li> <li>・地域材の利用推進のため、商品企画研究での検討に取り組む。</li> <li>・低コストで効率的な森林施業を推進するため、林業事業体等のスキルアップに取り組む。</li> <li>・地元産木材の利用推進や森林資源循環利用の普及啓発を目的とした木育教室を開催する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増養殖推進事業 引き続き各漁協が実施する増養殖事業の取り組みに協力し、水産資源維持に努める。</li> <li>・コンブ漁場整備事業 コンブ藻場の回復及び資源増大を図るため、三津浦地先(4ha)において大型特殊機械による雑海藻除去を実施する。</li> <li>・シシャモふ化事業 漁協が実施するシシャモ増養殖事業への取り組みを支援し、資源の維持・増大に努める。</li> <li>・釧路さけます増殖協力会運営費補助事業 引き続き各種増殖事業を実施する協会の運営を支援し、さけます資源の維持・増大に努める。</li> <li>・沖合資源増大実験事業 漁協が行うハタハタ・マダラ等の増養殖事業の取り組みに協力し、資源の維持・増大に努める。</li> <li>・漁業後継者就職支援事業 北海道立漁業研修所への入所及び漁業関連資格取得を支援することで、漁業後継者の漁業への定着及び漁業関連技術・知識の向上を図る。</li> <li>・水産加工業活性化支援事業 市内水産加工業者と連携し、付加価値の高い商品開発を実施する。 地域内外で開催される商談会や催事等に参加し、普及宣伝活動を実施する。 加工業者の人材養成に資するセミナーを開催する他、市民向けに加工教室を開催して魚食普及を促進する。</li> <li>・くしろプライド釧魚事業 漁業協同組合の協力のもと、SNSやラジオ等におけるその時期旬のプライド釧魚の情報発信を行うとともに、既存イベントを活用したポスター・チラシ等の配布を行うことにより、市民の旬産旬消・魚食の普及を推進する</li> <li>・くじらのまちづくり推進事業 くじら月間イベントの開催、釧路沖での捕鯨操業のための支援、学校給食への鯨肉購入支援を行い、鯨食文化並びに鯨文化の普及を図る。</li> </ul>	

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<p><b>②釧路の「食」の高付加価値化と地場産品の販路拡大</b></p> <p><b>ア 高付加価値化による魅力ある産品づくり</b> 「食」の鮮度や安全・安心を確保しながら、釧路ならではの「食」の地域資源の高付加価値化を図り、魅力ある産品づくりや他地域との競争力を強化する。</p> <p><b>イ 地場産品の販路開拓・拡大</b> 釧路の水産物や乳製品等、地場産品の普及促進を図るとともに、それらの情報を域外へ発信し、国内外における地場産品の販路開拓・拡大を推進する。</p> <p><b>【主な事業】</b> ・地場産品普及促進事業 ・水産加工業活性化支援事業【再掲】 ・くしろプライド釧魚事業【再掲】 ・食の魅力づくり推進事業</p>	産業推進室	<p>・釧路管内地場産品のセレクトショップである「マルシェくしろ」でのアンケート調査などの支援を通じ、高付加価値化による魅力ある産品作りを支援した。</p> <p>・地元菓子店とタイアップし生菓子詰め合わせの開発を支援した。</p> <p>・販路開拓・拡大を推進するため、商談会への出展支援を行ったほか、北海道内都市経済活性化会議を契機に連携した取組として、地元での商談会「卸売キャラバン隊商談会」を開催した。</p>	<p>・引き続き販路開拓・拡大を推進するため、商談会への出展支援を継続するほか、ターゲットを絞った首都圏小売との商談会、販売チャネルの多様化を図るため、ECサイト運営事業者との商談会を開催する。</p>
	観光振興室	<p>■地場産品の販路拡大</p> <p>・新型コロナウイルスの影響により、国内外における主要な物産展が一部中止となったものの、釧路市物産協会と連携しながら、物産展への出店や商談会への参加、販路開拓等を実施した。</p> <p>・コロナ禍での新たな販路拡大策として、釧路市物産協会のHPに地場産品のWEB販売サイトを構築し、オンライン上での販売やPRを行うなど、地元事業者の販路拡大を図った。</p>	<p>■前年度に引き続き、物産展への出店、商談会への参加等、販路拡大や販路開拓は一定の効果があることから継続し、さらに、昨年度中止となったイベントでの取り組みやweb等を活用しながら、地場産品の知名度アップを図る取り組みも進めていく。</p>
	水産課	<p>・水産加工業活性化支援事業【再掲】 マイワシ、スケトウダラなど釧路の魚を中心に、7件の商品開発を実施。 地域内にて3件の水産加工品の販売PRを実施。その内、フクハラ(2店舗)にて地元企業の水産加工品フェアを開催した。 市内外で開催される新食品表示制度、水産食品の輸出動向に関するセミナー3件に出席した。</p> <p>・くしろプライド釧魚事業【再掲】 レシピチラシを市内小売店57店舗に配布した。(年1回、計13,050部) ししゃも干し講習会やくしろ物産まつり等、既存イベントを活用し、試食やチラシ配布したほか、小売店と連携したPRイベントを実施した。その他SNSを活用し、旬の魚の情報発信を行った。(フォロワー数:1,192人、5月)</p>	<p>・水産加工業活性化支援事業【再掲】 市内水産加工業者と連携し、付加価値の高い商品開発を実施する。 地域内外で開催される商談会や催事等に参加し、普及宣伝活動を実施する。 加工業者の人材養成に資するセミナーを開催する他、市民向けに加工教室を開催し、魚食普及を促進する。</p> <p>・くしろプライド釧魚事業【再掲】 地元小売店と連携し、鮮魚売り場におけるプライド釧魚を使用した試食品提供を行うほか、旬産旬消を促すプライド釧魚のチラシやレシピ等の配布を行うことにより、市民に対し魚食普及を推進し、販路拡大を図る。</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<p><b>③釧路の自然文化を生かした世界一級の観光地域づくり</b></p> <p><b>ア 「日本版DMO」の推進</b> マーケティングやマネジメントを行い、地域内の官民協働や広域的な地域連携によって、魅力ある観光地域づくりやブランドづくりを推進する主体となる「日本版DMO」の育成を目指す。</p> <p><b>イ 釧路が誇る地域資源を生かした滞在型観光地域づくり</b> 釧路が誇る多様な地域資源を活用したコンテンツによる滞在プログラムづくり、外国人旅行者や国内からの旅行者の利便性向上を目的とした受入環境の充実、観光客の宿泊を伴う観光消費額の向上を目的としたまちなか周遊促進のコンテンツ整備等に取り組み、滞在型観光地域づくりを推進する。</p> <p><b>ウ 釧路のブランド力や広域エリアの魅力を生かした誘客の推進</b> 多様化・多国籍化する旅行客層に応じ、自然・文化・食などの釧路ブランド、広域観光周遊ルートや観光圏等の広域エリアの魅力を生かしたプロモーション等を効果的に実践し、国内外の観光客の誘致を図る。</p> <p><b>【主な事業】</b> ・観光施策推進事業 ・DMO推進体制強化事業 ・水のカムイ観光圏 整備事業 ・滞在体験観光促進事業 ・統合型リゾート構想推進事業 ・外国人観光客受入環境整備事業 ・港湾開発整備促進事業 ・港湾計画推進事業 ・阿寒地域活性化事業 ・博物館管理運営事業 ・海外観光客誘致事業 ・国内観光客誘致事業 ・観光情報発信提供事業 ・道東道利用促進事業 ・ひがし北海道空港連携誘致事業 ・空港拡張整備促進事業 ・釧路空港国際化推進事業 ・アイヌ政策推進交付金事業</p>	観光振興室	<p>■広域観光周遊ルート ・平成27年度に策定された広域観光周遊ルート形成計画に基づき事業を実施 ・主な実施事業として、釧路ブロックにおいて、在日台湾人のモニターツアー等を実施した。 ・令和2年度末をもって広域観光周遊ルート形成計画の最終年度となり、令和3年度以降は、この取り組みを全道に展開するために北海道が行う「広域観光周遊促進事業」に参画し各種事業を行う。</p> <p>■まちなか周遊促進 ・まちなかにおける新たなコンテンツとしてリバーサイドに「文字モニュメント」、末広エリアに「カムイの影絵」を整備し、これまでに整備した幣舞橋のライトアップと連動させた。 ・上記コンテンツをきっかけに、まちなかへのさらなる誘客促進を図るため、飲食店で使えるクーポンを提供するためのWEBシステムを開発するなど、飲食店等の事業継続に資する取組を行った。</p> <p>■「釧路・阿寒湖観光公式サイト」のページビュー数を向上と内容充実を図るためページ更新を実施。 令和2年度上半期実績：1,067,526(ページビュー数)</p> <p>■管内8市町村の官民で構成する「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」において、新型コロナウイルスの影響により、スタンプラリー等のキャンペーンから、くしろ地域の魅力を発信するPR動画制作などのプロモーション事業に変更し、実施。</p>	<p>■広域観光周遊促進事業 ・コロナ禍対策として、「新たな旅のスタイル」に対応した誘客促進として、テーマ別モデルルートの造成や受入環境の整備に取り組む。</p> <p>■まちなか周遊促進 ・整備したコンテンツを呼び水として、飲食店等における消費拡大を図るためのSNSを活用したキャンペーンを実施する。</p> <p>■昨年度と同様に、「釧路・阿寒湖観光公式サイト」のページビュー数を向上と内容充実を図るためページ更新を実施する。</p> <p>■前年度に引き続き、「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」として、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、くしろ地域の魅力を発信するキャンペーンを実施。</p>
	阿寒観光振興課	<p>■阿寒周国立公園広域観光協議会 ・11市町一体となった夏季、冬季観光資源の掘り起し、WEB・パンフレット等情報発信媒体の整備、PR媒体を活用したプロモーション、情報発信を実施</p> <p>■国立公園満喫プロジェクト ・「ステップアッププログラム2020」に基づく取組を各実施主体で実施 ・「ステップアッププログラム2025」の策定</p>	<p>■阿寒周国立公園広域観光協議会 ・11市町一体となった夏季、冬季観光資源の掘り起し、国内観光客をターゲットとしたプロモーション、情報発信の実施を計画</p> <p>■国立公園満喫プロジェクト ・「ステップアッププログラム2025」に基づく取組について各実施主体での実施を計画</p>
	観光振興室 阿寒観光振興課	<p>■DMO推進体制強化事業 日本版DMO構築のため、釧路観光コンベンション協会、阿寒観光協会まちづくり推進機構に、専門人材を配置し、戦略に基づく事業を実施。 ・専門人材の配置 釧路観光コンベンション協会2名 阿寒観光協会まちづくり推進機構2名 ・マーケティング、プロモーション及びブランディング戦略に基づく事業の実施</p> <p>■水のカムイ観光圏 ・「第2期水のカムイ観光圏整備実施計画」に基づく各種事業を展開 ・主な実施事業として、海外市場へのデジタルプロモーション、マーケティング調査等の各種事業を実施</p>	<p>■DMO連携事業 地域連携DMOの釧路観光コンベンション協会及び地域DMOの阿寒観光協会まちづくり推進機構と連携し、魅力ある観光地域づくりやブランドづくりを推進。</p> <p>■水のカムイ観光圏 ・「第2期水のカムイ観光圏整備実施計画」に基づく各種事業を展開 ・主な実施事業として、滞在コンテンツの造成(AT事業)、海外市場へのデジタルプロモーション、マーケティング調査等の各種事業の実施を計画</p> <p>■アドベンチャートラベル推進事業 ・欧米市場をターゲットに、AT(アドベンチャートラベル)による誘客を推進。 ・AT推進体制を強化するため、釧路観光コンベンション協会については、DMOが対象となる観光庁の補助金「世界に誇る観光地を形成するためのDMO体制整備事業」を活用、阿寒観光協会まちづくり推進機構については、地方創生推進交付金を活用し、専門人材を配置することで、ATプロモーション戦略の立案、ツアーコーディネート業務やプロモーション等、AT推進体制の強化の実施を計画。</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
	阿寒観光振興課	<p>■アイヌブランド化等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ政策推進交付金を活用し、以下の事業を実施。</li> <li>・アイヌ文化ガイド事業</li> <li>・阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業</li> <li>・アイヌ文化関連観光プロモーション事業</li> <li>・アイヌ文化フェスティバル開催事業</li> </ul> <p>■観光振興臨時基金を活用した観光振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿寒湖温泉地区における観光振興事業の推進支援</li> </ul> <p>&lt;主な事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなか活性化事業</li> <li>店舗の外観改修による景観支援事業(実施店舗2店舗)</li> <li>・循環バス運行事業</li> <li>阿寒湖温泉地区内での無料循環バスの運行。</li> <li>運行期間:12/25~3/31</li> <li>利用者数81人</li> <li>・「阿寒エアポートライナー」の運行</li> <li>運行期間:1/1~3/15</li> <li>利用者数169人</li> </ul> <p>■地域おこし協力隊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内所での外国人対応業務の実施</li> <li>・日本語及び外国語を活用した観光情報発信業務の実施</li> <li>・地域及び広域観光エリアにおける観光プロモーション業務の実施。</li> <li>・地域及び広域観光エリアにおける観光地域づくり推進に資する業務の実施</li> </ul>	<p>■アイヌブランド化等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ政策推進交付金を活用し、以下の事業を実施。</li> <li>・アイヌ文化ガイド事業</li> <li>・阿寒湖アイヌアーティストのブランド化事業</li> <li>・アイヌ文化関連観光プロモーション事業</li> <li>・アイヌ文化フェスティバル開催事業</li> </ul> <p>■観光振興臨時基金を活用した観光振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿寒湖温泉地区における観光振興事業の推進支援</li> </ul> <p>&lt;主な事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォレストガーデン整備事業</li> <li>第2工区第1期工事(桜並木造成工事、歩道造成工事)</li> <li>・まちなか活性化事業</li> <li>店舗の外観改修による景観支援事業</li> <li>・おもてなし事業</li> <li>宿泊者の夜間回遊を促すためのベンチコートを製作し各ホテルに配備</li> <li>・循環バス運行事業</li> <li>阿寒湖温泉地区内での無料循環バスの運行。運行期間:4/1~3/31</li> </ul> <p>■地域おこし協力隊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドベンチャートラベル(AT)推進事業の実施</li> <li>・旅行者に対する外国語及び日本語を活用しての観光案内業務の実施</li> <li>・外国語及び日本語を活用した観光情報発信業務の実施</li> <li>・地域及び広域観光エリアにおける観光地域づくり推進に資する業務の実施</li> </ul>
	港湾空港課	<p>【港湾開発整備促進事業】(クルーズ船)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初15回の寄港予定だったが、コロナの影響によりすべて中止となり、受入事業は未実施となった。</li> <li>・コロナ禍における国内クルーズ船の受入れを再開するため、港湾ガイドライン等を遵守した安全対策を構築し、保健所を含めた地域の関係機関で構成する協議会を設け、令和3年度の受入について合意形成を行った。</li> </ul> <p>※クルーズ船寄港 R2年度0回(R2当初予定15回)</p> <p>(ポートセールス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響によりポートセミナー(道内1回・東京1回)は中止となり、代替事業として例年参加している首都圏の企業へ釧路港の資料を送付し、釧路港利用のPRを行った。</li> </ul> <p>【港湾計画推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の関係企業にヒアリング等を実施しながら、平成23年に策定した釧路港国際バルク戦略港湾の選定に向けた計画書の検証を行った</li> <li>・中央埠頭再編に関する検討を進めて、対象とする船舶を決めた</li> <li>・釧路港特定貨物輸入拠点港湾利用推進協議会(第3回)を開催し、会員に対して港湾管理者や特定埠頭運営者から報告を行った</li> </ul>	<p>【港湾開発整備促進事業】(クルーズ船)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7回の寄港を予定しており、安全対策(接岸岸壁での三密の回避など)を講じた上で受入を行う。</li> <li>・コロナ禍での受入にあたり、感染防止対策として乗下船時など一定の間隔をとった動線の確保や見学者等の立入禁止区域を設定する必要があるため、遮蔽資材を整備し、安全対策を図る。</li> </ul> <p>※クルーズ船寄港 R3年度7回(5月25日時点:コロナの影響により5回寄港中止)</p> <p>(ポートセールス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道内及び東京でポートセミナーを開催し、官民一体となって釧路港の利用促進に向けたPRを行う。</li> </ul> <p>【港湾計画推進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央埠頭再編に伴う施設整備の検討を行う予定</li> </ul>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
	阿寒地域振興課	<p>釧路空港・阿寒IC利用者の日中滞在型施設である道の駅阿寒丹頂の里を中心に、市民や観光客が集う憩いの場所づくりを継続。新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館や時短営業を余儀なくされたが、感染防止対策を実施し、利便性を確保しながら運営した。</p> <p>赤いベレーをはじめとするエリア一体の今後のあり方を検討すべく、阿寒丹頂の里エリア持続的発展調査業務委託を実施し、経営コンサルの視点で調査報告書をまとめた。</p>	<p>感染防止対策を徹底し、引き続き滞在型観光地域づくりに努める。</p> <p>前年度の業務委託で示された報告書をもとに、ひとつひとつの課題を整理しながら、ハード・ソフトそれぞれの実施項目やスケジュールを精査し、計画の実現に向けた準備を進める。</p>
	博物館	<p>外国人入館者数 29名</p> <p>展示室を案内する音声ガイドについて、Web上での利用を開始した。</p>	<p>展示室における解説等の多言語化を進める。</p>
<b>④ 中小企業・小規模事業者の「外から稼ぐ力」の強化</b>			
<p><b>ア 地域経済を支える中小企業・小規模事業者の支援</b>                      釧路市中小企業基本条例の理念を踏まえた釧路市ビジネスサポートセンター k-Bizや、釧路工業技術センターといった産学官連携による、生産性・付加価値の向上、「売れるモノづくり」、販路の拡大、域内連関の推進、経営の安定などに向けた総合的な支援を行う。</p> <p><b>イ 創業・第二創業の支援</b>                      雇用の確保や裾野の広い産業構造の形成を図るため、地域の支援機関や金融機関と連携し、ビジネスモデルの構築、体系的な知識の習得、資金調達など、創業に必要な要素に応じた適切な支援を行う。</p> <p>【主な事業】                      ・中小企業振興資金貸付対策事業                      ・中小企業・小規模事業者活性化推進事業                      ・ビジネスサポートセンター事業                      ・空き店舗等活用促進事業                      ・商工会・商店街等活性化支援事業                      ・IoT推進事業                      ・企業立地促進条例補助事業                      ・釧路工業技術センター運営事業</p>	商業労政課	<p>企業の強みを引き出し、売り上げ増に重点を置いて、具体的な提案を行い、継続的に支援を行う「釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz」の相談体制を強化し、企業の売り上げ増と雇用創出を通じた地域経済の活性化を図るため、事務局体制を強化を図った。</p> <p>包括的創業支援促進事業について、市相談窓口を配置し窓口相談対応を実施するほか、空き店舗への出店に関する補助金や創業に係る資金需要に対応した創業支援資金のあっせんなど、新規創業に資する支援を実施した。</p> <p>うち、空き店舗等活用促進事業については、創業者に対し1件、創業支援資金については同じく19件の支援を行った。</p>	<p>「釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz」において、引き続き、企業の強みを引き出し、売り上げ増に重点を置いて、具体的な提案を行い、継続的に伴走型の支援を行うとともに、東北にある他のビズモデル型支援拠点3施設との連携により、さらなる支援強化を図り、地元事業者の売上アップを図る。</p> <p>包括的創業支援促進事業について、市相談窓口を配置し窓口相談対応を実施するほか、空き店舗への出店に関する補助金や創業に係る資金需要に対応した創業支援資金のあっせんなど、新規創業に資する支援を継続する。</p>
	産業推進室	<p>・IoTを活用した地域課題解決に向けて、通信インフラの未整備地域におけるLPWAネットワーク構築に関する実証実験に着手した他、児童見守り及び牛の個体管理に係る実証実験を実施し、新たな産業の創出や生産性の向上の基盤づくりを行った。</p> <p>・企業立地促進条例補助金及び課税免除実績は5件となっている。</p> <p>・釧路工業技術センターにおいては、地元企業からの技術相談、支援、事業に対するコーディネートを行った。</p>	<p>・引き続き、IoTを活用した地域課題解決に向けて、課題を抽出し、実証実験に取り組む他、中小製造事業者が取り組むIoTを活用した生産性向上の取組みに対する支援を行う。</p> <p>・企業立地促進条例補助金等のインセンティブを活用しつつ、地域の特性を活かした企業誘致活動に引き続き取り組む。</p> <p>・釧路工業技術センターにおいては、地元企業からの技術相談、支援、事業に対するコーディネートを行う。</p>
<b>⑤ 地域に根ざした石炭産業の振興</b>			
<p><b>ア 石炭エネルギーの活用</b>                      国内で唯一、坑内炭鉱で採掘される石炭を活用して、地域に必要なエネルギーを確保する。</p> <p>【主な事業】                      ・産炭地振興対策事業                      ・炭鉱技術研修支援事業</p>	産業推進室	<p>釧路コールマイン(株)が実施する技術移転研修については、コロナ禍により、研修生の来日がかねわなかったものの、オンライン研修等により事業を実施した。石炭火力発電事業については、R2.12.4に商業運転を開始し、順調に稼働している。</p>	<p>国内で唯一の坑内掘り炭鉱である釧路コールマイン(株)の石炭の活用や、採炭・保安・管理技術の移転等事業の支援など、石炭産業の振興に取り組む。</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<p><b>⑥ 釧路の強みを生かした交流人口・関係人口の拡大</b></p> <p><b>ア 国際会議観光都市「釧路」を生かしたMICE誘致の推進</b> 世界規模の国際会議を開催した実績、冷涼な気候やインフラ等を生かし、戦略的なプロモーション活動などにより会議等の誘致を進め、交流人口の拡大を目指す。</p> <p><b>イ 釧路滞在誘致活動の推進</b> 夏季の冷涼な気候や豊かな自然・食、氷上競技が盛んな風土など、本市の強みを生かしたスポーツ合宿の誘致や長期滞在事業を推進し、交流人口の拡大を目指す。 また、これらの持続的な取り組みにより、本地域の人々と多様に関わる「関係人口」の創出・拡大を図る。</p> <p><b>ウ 国内外からの交流人口の受入拡大</b> 国内外からの交流人口の拡大を目指すため、ひがし北海道の空の玄関口である「たんちよう釧路空港」のほか、大型クルーズ船が寄港する釧路港、大都市圏と釧路をつなぐ陸路である幹線道路網や鉄道など、陸海空の交通ネットワークの充実を図るとともに、戦略的な情報発信やプロモーションにより、多様な人々をひきつける取り組みを進める。</p> <p><b>【主な事業】</b> ・MICE産業強化推進事業 ・スポーツ合宿誘致推進事業 ・湿原マラソン大会開催事業 ・釧路市・八千代市少年少女スポーツ交歓交流事業 ・博物館交流提携事業 ・国際交流推進事業 ・道東道利用促進事業【再掲】 ・ひがし北海道空港連携誘致事業【再掲】 ・空港拡張整備促進事業【再掲】 ・釧路空港国際化推進事業【再掲】 ・移住定住・長期滞在促進事業</p>	市民協働推進課	<p>予定されていたバーナビ市との姉妹都市提携55周年記念事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止。 姉妹都市八千代市に係る事業として、両市の姉妹園による応援メッセージ・作品交換(北海道主催事業)へ協力した。また、日口地域交流年(令和2～3年)認定事業として、姉妹園合同子ども作品展及び姉妹都市紹介パネル展示実施に協力した。 港街友好都市ペトロパブロフスク・カムチャツキー市開基280周年記念式に向け釧路市長による祝賀ビデオメッセージを送信し、当市HPに掲載した。 また外国人の受入環境整備及び多文化共生の推進を図るため、くしろ国際交流プラザの管理・運営、釧路市通訳者登録制度及び外国人傷病者対応連絡協議会の運営を行った。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、釧路市多言語版ホームページに「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」カテゴリーを設け、多言語及びやさしい日本語で情報発信を行った。 さらに新規事業として、やさしい日本語セミナー(市民向け・職員向け)をそれぞれ開催した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、「くしろお試しワーキングホリデー事業」の中止など、事業展開が限定的となった。移住者把握のために従前まで行っていた任意アンケートに替え、戸籍住民課と連携し「住民異動届」へのアンケート欄の追加を行い、より移住者を把握しやすい体制を整えた。</p>	<p>日口地域交流年事業(令和2～3年)の一環として、姉妹都市ホルムスク市に係る事業(釧路市日口親善協会と釧路若草会による姉妹園子ども作品展)に協力予定。 外国人の受入環境整備・多文化共生の推進を図るため、くしろ国際交流プラザの管理運営、釧路通訳者登録制度及び外国人傷病者対応連絡協議会の運営を行う。 また、昨年度に続き「やさしい日本語セミナー」を開催する。</p>
	観光振興室	<p>■MICE産業強化推進事業 釧路観光コンベンション協会、北海道MICE誘致推進協議会と連携して誘致活動や視察対応等を実施し、釧路市開催の全国規模の会議誘致につなげることができた。 ・平成28年度より制度化した「コンベンション開催補助金」の対象会議として、全国規模の会議が令和4年度に釧路市で開催されることが決定。 ○R2年度実績:18件 4,995人 ■管内8市町村の官民で構成する「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」において、新型コロナウイルスの影響により、スタンプラリー等のキャンペーンから、くしろ地域の魅力を発信するPR動画制作などのプロモーション事業に変更し、実施。 ■新型コロナウイルス感染拡大の影響により低迷した観光需要・航空需要を喚起するため、釧路空港に就航する各航空会社を始めとした関係機関と連携し、WEBサイトを通じて、釧路地域・ひがし北海道地域の魅力を紹介するページを制作するなど、釧路線利用促進等のPR活動を実施。国外向けには、コロナ収束後の需要を見据え、タイ・マレーシア・台湾へ向けて、道内在住モデルによるSNSやブログ等の情報発信事業を実施。 ・JAL・ANA・AIRDO・PEACHそれぞれと連携しキャンペーンの展開と情報発信事業を実施。 ・タイ・マレーシア・台湾へ向けた情報発信事業を実施。 ・釧路空港の利用促進と、路線維持、拡充に向けた航空会社への要請活動を実施。</p>	<p>■MICE産業強化推進事業 昨年度と同様に、釧路観光コンベンション協会、北海道MICE誘致推進協議会と連携して誘致活動や視察対応等を実施し、釧路市開催の全国規模の会議誘致につなげていく。 ■前年度に引き続き、「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」として、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、くしろ地域の魅力を発信するキャンペーンを実施。 ■前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により低迷した観光需要・航空需要を喚起するため、釧路空港に就航する各航空会社を始めとした関係機関と連携し、釧路地域・ひがし北海道地域の魅力PR活動を実施予定。国外向けには、コロナ収束後の需要を見据え、台湾など東アジア地域へ向けた情報発信事業を実施予定。 ・JAL・ANA・AIRDO・PEACHそれぞれと連携し季節便を含む釧路線利用促進事業を実施予定。 ・台湾など東アジア地域へ向けた情報発信事業を実施予定。 ・釧路空港の利用促進と、路線維持、拡充に向けた航空会社への要請活動を実施予定。</p>
	スポーツ課	<p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年どおりの誘致活動ができなかった。また、来訪団体も大幅な減少となった中、陸上長距離などで新規団体の来訪があったことなど明るい兆しもあった。 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が1年延期となったことにより、パラリンピックのベトナム選手団の直前合宿についても1年延期となり、本年度の合宿は行われなかった。 湿原マラソン大会開催事業および釧路市・八千代市少年少女スポーツ交歓大会については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止となっている。</p>	<p>スポーツ合宿誘致推進事業については、誘致活動や情報収集に取り組み、既存団体の再訪や、夏季種目を中心に新規団体の来訪につなげていく。 また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたベトナム選手団の直前合宿については、相手側からの申し出により中止となったが、事後交流などについては、引き続き取り組んでいく。 湿原マラソン大会開催事業および釧路市・八千代市少年少女スポーツ交歓大会については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年度に引き続き今年度も中止となっている。</p>
	博物館	<p>新型コロナ感染症の影響で事業は未実施。</p>	<p>新平溪煤礦博物園區との友好提携の締結並びに企画展の開催</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
【基本目標2】雇用・就業機会の創出と地域を支える人材育成・人材確保を図る			
①地域を支える人材の確保			
<p><b>ア 地域産業を支える多様な人材の育成・確保</b>                      地域産業を支える人材の育成・確保を図るため、高等教育機関や試験研究機関、職業訓練機関等との連携により、高い技術力や経営に関する知識等を習得するための支援を行うなど、挑戦する人づくりを進める。</p> <p><b>イ 地域の未来を担う子ども・若者の人材育成</b>                      様々な職業体験を通じて、子どもの職業観を育む。また、若者のキャリア形成への支援や、地元企業への理解促進のために、職場研修や、保護者や子どもに対して就労を希望する職種に関する情報提供を行うことで、子どもたちが地域の未来を担う人材となるよう育成・確保を図る。</p> <p><b>ウ 女性の活躍促進</b>                      育児や介護等を抱えながら継続就業や復職を希望する女性の活躍を促進するため、女性の就労支援や女性が活躍しやすい環境づくりを進める。</p> <p>【主な事業】                      ・地域職業訓練センター運営補助事業                      ・UIJターン推進事業                      ・人材確保・定着促進事業                      ・釧路工業技術センター運営事業【再掲】                      ・ふき紙普及促進事業                      ・キャリア教育推進事業                      ・男女平等参画推進事業                      ・女性求職者就労促進事業</p>	<p>市民協働推進課                      男女平等参画センターの講演会やセミナーには全7回402名の参加を得た。また、「くしろ男女いきいき参画表彰」は今年度5回目となり、2団体の表彰が決定し、11月17日に表彰式を開催した。                      市主催では11月19日に市の管理職、他官公庁、民間企業の管理職を対象にワーク・ライフ・バランスをテーマに男女平等参画セミナーを開催し24名の参加を得た。</p> <p>商業労政課                      多様な職業訓練を実施し、労働者の職業能力の向上や人材育成を行った。(職業訓練修了者101人)                      UIJターン就職推進のため、就職個別相談会(参加者数21人)の実施、UIJターン就職マッチング(就職者数2人)や移住支援金交付(就職実績2件)の周知等を実施した。                      地元の高校3校にそれぞれ企業を招き、講話・交流会を開催した。(参加企業延べ29校、参加生徒延べ587名)                      「釧路企業情報」を作成し、高校の3者面談等で配布することにより、保護者や子どもに対し、地元企業の情報提供を実施した。                      女性の就職・再就職支援事業として、結婚・出産・育児により離職した女性の再就職や就労が困難な状況にある女性の就労を支援する講座を実施した。(新規就労者数9名)</p> <p>産業推進室                      ・釧路工業技術センターにおいては、地元企業からの技術相談、支援、事業に対するコーディネートを行った。</p> <p>音別地域振興課                      ・音別及び釧路地区において体験講習会を実施し、引き続きPR及び普及促進に向けた取り組みを行った。【講習会:3回】小学生25名、中学生12名、一般17名:計54名                      ・担い手となる人材の確保、充実につなげるため、富貴紙製品のPR、販売促進活動を行った結果、阿寒湖温泉ホテル2館における富貴紙製品(扇子)の販売開始に至った。                      ・富貴紙を活用した新製品として、阿寒アイヌコンサルン協力のもと、アイヌ文様入り扇子を180本製作、140本を販売した。                      ・生産については、会計年度任用職員3名による体制を継続、経験年数の積み重ねにより、製造技術の向上が図られた。                      ・紙漉き職人と定期的に打ち合わせを行い、品質向上に向けた助言、指導をいただき、引き続き人材育成、技術向上を図る取り組みを行った。</p> <p>教育支援課                      【キャリア教育推進事業】                      子どもたちが職業や社会の仕組みを学ぶとともに、将来の自立につなげるため、企業や団体等と連携し、教育委員会が学校へ提供する職場体験事業所リストへの掲載に141事業所の協力が得られた。                      また、平成30年度に締結した釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリア教育の推進に向けた取組として、小学校3校、中学校5校において職業講話を実施した。</p>	<p>男女平等参画センター主催の講演会やセミナー、市主催の男女平等参画セミナーなどの啓発事業を実施する。                      「くしろ男女いきいき参画表彰」の推薦、選考、決定、表彰式を実施し、女性活躍の促進を図る。</p> <p>多様な職業訓練を実施し、労働者の職業能力の向上や人材育成を図る。                      UIJターン就職推進のため、就職個別相談会の実施、UIJターン就職マッチングや移住支援金交付の周知等を実施している。                      地元の高校や大学と連携し、交流会等を開催することにより、学生・生徒と企業の交流の場を作る。                      「釧路企業情報」の配布や「はたらく×中高生・つながるプロジェクト」の実施により、地元企業の情報提供に努める。                      女性の就職・再就職支援事業として、結婚・出産・育児により離職した女性の再就職やキャリアアップを目指す女性を支援する講座を実施する。</p> <p>・釧路工業技術センターにおいては、地元企業からの技術相談、支援、事業に対するコーディネートを行う。</p> <p>・富貴紙製品のPR、普及促進を図るため、引き続き体験講習会を開催するとともに、市内の関係団体等との連携により定期的に展示販売活動を行っていく。                      ・富貴紙製品の販売店舗を増やし、更なる普及、販売促進を目指す。                      ・富貴紙を活用した新たな製品の開発を検討していく。                      ・R3.3月末にて生産を担う会計年度任用職員2名が退職したが、新たな人材を確保し、紙漉き職人の助言、指導をいただきながら、製作技術、文化伝承を行う人材育成に向けた取り組みを進めていく。                      ・R2.10月に採用した地域おこし協力隊と連携して販路拡大活動を行い、更なるPR、普及促進を進め、技術、文化の伝承に係る人材の発掘、育成につなげていく。</p> <p>【キャリア教育推進事業】                      企業や団体等との連携により、教育委員会が学校へ提供する職場体験事業所リストについては、新規の受入事業所の開拓に努める。                      釧路青年会議所との連携協定に基づく取組として、全中学校1年生を対象とした、オンラインによる「キャリアシンポジウム」を開催し、中学校3年間のキャリアプラン形成の一助とするとともに、全中学校2年生を対象とした「オンライン職場体験」を実施し、生徒自らが興味・関心に応じて企業を選択し、具体的な話を聞くことでキャリアアップへつなげるものとする。</p>	

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<b>② 地域特性を生かした企業誘致</b>			
<b>ア 物流機能、ものづくり技術などを生かした企業誘致</b> 港湾・空港、高速道路網の物流機能、地元企業が有するものづくり技術、気候特性などを活用した企業誘致及び既存立地企業の支援に取り組む。  <b>【主な事業】</b> ・企業誘致促進事業 ・釧路工業技術センター運営事業【再掲】 ・企業立地促進条例補助事業【再掲】 ・産炭地 振興対策事業【再掲】	産業推進室	・地域の特性を活かした企業誘致や、既存立地企業のフォローアップに取り組むとともに、テレワーク・サテライトオフィス等の新たな形態による企業誘致について、ニーズ把握や受入体制構築に取り組んでいる。 ・釧路工業技術センターにおいては、地元企業からの技術相談、支援、事業に対するコーディネートを行った。 ・企業立地促進条例補助金及び課税免除実績は5件となっている。 ・釧路コールマイン(株)が実施する技術移転研修については、コロナ禍により、研修生の来日がかねわなかったものの、オンライン研修等により事業を実施した。石炭火力発電事業については、R2.12.4に商業運転を開始し、順調に稼働している。	・引き続き、地域の特性を活かした企業誘致活動及び既存立地企業のフォローアップに取り組む。テレワーク・サテライトオフィスの誘致については、引き続きニーズ把握と受入体制構築に努めるとともに、地元企業等との連携強化によるマッチング体制構築に取り組む。 ・企業立地促進条例補助金等のインセンティブを活用しつつ、地域の特性を活かした企業誘致活動に引き続き取り組む。 ・釧路工業技術センターにおいては、地元企業からの技術相談、支援、事業に対するコーディネートを行う。 ・国内で唯一の坑内掘り炭鉱である釧路コールマイン(株)の石炭の活用や、採炭・保安・管理技術の移転等事業の支援など、石炭産業の振興に取り組む。
<b>③ 釧路の強みを生かした移住・定住の促進及び関係人口の創出</b>			
<b>ア 釧路の強みを生かした官民の連携による移住・定住の促進及び関係人口の創出</b> 恵まれた気候風土や医療環境などの釧路の特性を発信し、長期滞在の取り組みにおいて蓄積された官民のノウハウを生かして、二地域居住や移住者の増加を図る。 また、地方移住を拡大するため、本地域に継続的な形で関わる「関係人口」の創出・拡大に取り組む。  <b>イ 地元関係機関と連携した人材の確保</b> 首都圏からの就労を伴う移住者に対する支援を行うなど、UIJターンによる道内外からの人材誘致を進めるとともに、地元高等教育機関との連携強化により、就学した学生の将来にわたる釧路への定着を図るなど、地域を発展させる新たな人材の確保を推進する。  <b>【主な事業】</b> ・移住定住・長期滞在促進事業【再掲】 ・UIJターン推進事業【再掲】 ・人材確保・定着促進事業【再掲】	市民協働推進課 新型コロナウイルス感染症の影響により、「くしろお試しワーキングホリデー事業」の中止など、事業展開が限定的となった。移住者把握のために従前まで行っていた任意アンケートに替え、戸籍住民課と連携し「住民異動届」へのアンケート欄の追加を行い、より移住者を把握しやすい体制を整えた。	新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、各種事業の実施可否を適切に判断していく。また、「住民異動届」による移住者調査による移住者の動向把握に努め、移住施策の取り組み拡大に活かしていく。さらに、R3年度はテレワーク交付金を活用した「ワーケーション」への取り組みに際し、関係課と連携を図り、関係人口の創出及び移住者の受入拡大に向けた準備・対応を新たに行う。	
	商業労政課	UIJターン就職推進のため、就職個別相談会(参加者数21人)の実施、UIJターン就職マッチング(就職者数2人)や移住支援金交付(就職実績2件)の周知等を実施した。 地元の高校3校にそれぞれ企業を招き、講話・交流会を開催した。(参加企業延べ29校、参加生徒延べ587名)	UIJターン就職推進のため、就職個別相談会の実施、UIJターン就職マッチングや移住支援金交付の周知等を実施している。 地元の高校や大学と連携し、交流会等を開催することにより、学生・生徒と企業の交流の場を作る。
<b>④ 安心な暮らしを守る人材づくり</b>			
<b>ア 介護人材の確保</b> 介護サービス利用者の増加に伴い、不足している介護従事者人材を確保するため、資格取得や復職への支援等を行う。  <b>イ 医療従事者の確保</b> 将来にわたり地域住民への継続的な医療サービスを提供するため、医療を担う従事者の養成と確保に取り組む。  <b>【主な事業】</b> ・介護人材確保事業 ・看護師確保対策事業 ・高等看護学院施設管理事業	介護高齢課 介護職員の確保及び育成を図るべく、介護分野の未経験者を対象とした資格取得と有期雇用を組み合わせた事業に取り組んだ。(事業名:介護人材確保育成支援事業 資格取得者7名、実施事業所における継続雇用6名) また、有資格者の介護現場への復職を支援する事業を実施。(事業名:介護潜在人材復職支援事業 受託事業所での継続就労2名)	介護職員の確保及び育成を図るべく、介護分野の未経験者を対象とした資格取得と有期雇用を組み合わせた事業に取り組む。(事業名:介護人材確保育成支援事業) また、有資格者の介護現場への復職を支援する事業を実施する。(事業名:介護潜在人材復職支援事業)	
	健康推進課	地域における看護師を確保するため、釧路市医師会看護専門学校に対し補助金を支出。	地域における看護師を確保するため、釧路市医師会看護専門学校に対し補助金を支出。
	高等看護学院	臨床判断能力に必要な基礎的能力を養うことが出来るよう、学習環境を整備し、学修の効率向上を図った。  入学生 32人 卒業生 28人 (内市内就職(看護職))26人	教材や備品を計画的に更新し、学習環境を整備することで学内での実技演習や体験学習を充実させ現場におけるニーズの変化への即応を図る。

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<b>⑤ 就労自立支援対策</b>			
<b>ア 障がい者への就労支援の充実</b> 障がい者の一般就労の促進を図るとともに、一般就労の難しい障がい者の福祉的就労における工賃水準の向上を促進するため、就労支援施策を実施する。  <b>イ 生活困窮者等への就労支援の充実</b> 生活保護受給者及び生活困窮者に対し、自立へ向けた各種支援施策を実施する。  <b>ウ ひとり親家庭の自立支援対策の充実</b> ひとり親家庭の児童の健全な育成を図るため、相談体制の充実や経済的支援策等、総合的に取り組む。  <b>【主な事業】</b> ・就労支援強化事業 ・生活困窮者自立促進支援事業 ・生活保護法施行事業 ・ひとり親家庭等日常生活支援事業 ・ひとり親家庭自立支援促進事業	障がい福祉課	障がい者職場実習支援事業、障がい者就労貢献企業認定制度事業を継続実施し一般就労の啓発と促進を図った。新型コロナウイルスの影響により販売機会が減少した障害福祉サービス事業所にマスク政策の委託を行い、事業所の受注機会及び、障がい者の工賃確保を図った。	就労支援強化事業を継続実施し障がい者雇用の啓発と促進を図る。障がい者工賃確保推進事業として、庁内の工事関係業務を、受託可能な事業所に委託することで、障がい者就労施設の受注機会を拡大し、障がい者の工賃の向上を図る。
	生活福祉事務所	生活保護受給者及び生活困窮者に対して、就労体験等により就労意欲を向上させ(142人)、ハローワークや無料職業紹介事業を活用し、就労に結びつけた(257人)。 ※参考:被保護実人員(月平均) H31年度8,172人⇒R2年度8,057人	前年度に引き続き、生活保護受給者及び生活困窮者に対して、就労体験等により就労意欲を向上させ、ハローワークや無料職業紹介事業を活用し、就労に結びつける。
	こども支援課	釧路市ひとり親家庭自立促進計画に基づき、ひとり親家庭の自立や生活基盤の安定に資するため、自立支援給付金事業(資格取得等のための経済的支援)、自習室事業(学習支援)、日常生活支援事業(ヘルパ-)を行い、ひとり親家庭の経済的自立のための支援を行った。	今後も引き続き同事業を継続し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努めながら、ひとり親家庭の自立、生活安定のための支援を行う。

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
【基本目標3】地域が支え、安心して働ける環境をつくる			
① 結婚や妊娠を支える環境づくり			
<b>ア 結婚支援や社会気運の醸成</b> 若者の結婚・子育てに対する不安を解消するため、講座等の開催、北海道等が開催するセミナー等への参加促進や民間が開催する事業への支援を行うとともに、若年者の生活の安定化を図るための就労支援及び住環境の整備を行う。  <b>イ 妊娠・出産に向けた支援</b> 不妊治療世帯への経済的負担の軽減を図るとともに、思春期においては、性に関する正しい知識の普及を図り、自らが望んだ時期に妊娠できる力を育む。また、妊娠期には、子育てに必要な知識について夫婦で学ぶことができる機会を提供し、不安や悩みの解消を図るため、教育・相談体制の充実を図る。  <b>【主な事業】</b> ・住宅管理事業 ・健康手帳交付事業 ・健康教育事業 ・思春期ライフデザイン事業 ・特定不妊治療費助成事業	健康推進課	・妊娠前からの支援として、特定不妊治療費の助成において、男性不妊治療へ助成を拡大した。 特定不妊治療(延53人) 男性不妊治療(平成28年1月より実施)(利用者なし) ・安心・安全な妊娠及び出産に向けて、妊娠初期には母子健康手帳の交付(849件)及び妊娠中の方へ配慮を促すマタニティシゴルの普及(ストラップの配付等)に取り組んだ。また、妊娠期間中の不安や悩みの解消を図るため、妊婦相談(延866件)に取り組んだ。 ・中高生を対象とした思春期ライフデザイン講座、依頼健康教育、思春期教育関係職種会議を開催(参加者延2,876人)した。 ・主に初産婦とその家族を対象としたマタニティ講座を開催(受講者延109人)した。受講したことで「妊娠・出産・育児に対する不安の解消に役立った」と答えた割合99.1%	・特定不妊治療費の助成により、妊娠前からの支援を実施することができた。 ・妊娠届出数は年々減少傾向である。マタニティシゴルについては、ストラップを配布することで、地域に理解が浸透し、周囲の妊娠中の方への配慮がされつつある。また、妊婦相談においては、妊娠期～子育て期までの様々な困りごと、不安の解消が図られている。  ・昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため一部講座を開催できなかった学校があたが、今年度の思春期ライフデザイン講座は市内のすべての中学・高校から実施希望があり、性に関する正しい知識の普及につながっていると考えられる。今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を図りながら事業を継続していく。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していた講座を2回中止したことで、昨年度と比較し実績が下回ったが、マタニティ講座が不安の解消に役立ったと答えた割合は99.1%と昨年度とほぼ同じ割合であった。今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を図りながら事業を継続し、子育てに必要な知識を提供し、不安の解消につなげていく。
	住宅課	定期公募において、既存住宅の他に新築住棟から複数戸を提供したことから、6月公募にて2件、11月公募にて2件、合計4件の提供となった。	昨年度と同様に定期公募において、既存住宅の他に新築住棟から複数戸を提供する。

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<p><b>②安心して子どもを生み育てられる環境づくり</b></p> <p><b>ア 安全・安心な母子保健医療の充実</b> 母子の健康が確保されるよう、乳幼児健診・新生児訪問、母子保健における健康診査、訪問指導、保健指導により、子どもの発育・発達などの面から子育て中の保護者の不安や悩みに対する支援を行う。</p> <p><b>イ 教育・保育サービスの充実</b> 子どもを安心して育てることができるよう、保育所などの利用者の生活実態やニーズを踏まえ、各種のサービス提供体制の確保と質の高いサービスの充実を図る。</p> <p><b>ウ 地域における子育て支援の充実</b> すべての子育て世帯への支援を行うため、子育ての負担を軽減するサービスの提供など、きめ細やかな支援サービスを提供するとともに、子育て支援に関する様々な情報を積極的に提供する。</p> <p><b>エ 働きながら子育てしやすい環境の充実</b> 男女平等参画社会、仕事と家庭の調和の実現に向け、労働者・事業主・地域住民の理解と合意形成を図るため、積極的に情報提供を行うとともに、セミナーなどを通じ普及啓発に努める。</p> <p><b>オ 子どもと子育て世帯が暮らしやすい生活環境の充実</b> 子どもが犯罪等の被害に遭わないよう、防犯に関する普及啓発を図る。また、子育て世帯の住宅の確保に努め、住環境の充実を図る。</p> <p><b>【主な事業】</b> ・保育所運営事業 ・法人立保育所等運営協力事業 ・利用者支援事業 ・地域子育て支援拠点事業 ・子育て世代包括支援センター事業 ・乳児家庭全戸訪問事業 ・健康教育事業【再掲】 ・健康相談事業 ・健康診査事業 ・産後ケア事業 ・重度心身障がい者医療事業 ・ひとり親家庭等医療事業 ・乳幼児等医療事業 ・私学振興補助事業 ・一時預かり事業 ・市立幼稚園管理運営事業 ・日本スポーツ振興センター事業 ・ファミリー・サポート・センター事業 ・児童館管理運営事業 ・放課後児童クラブ運営事業 ・阿寒町子ども交流広場運営事業 ・阿寒湖温泉子供交流館事業 ・音別町放課後子ども広場運営事業 ・放課後子どもプラン事業 ・就学奨励事業</p>	市民協働推進課	<p>男女平等参画センターの講演会やセミナーには全7回402名の参加を得た。また、「くしろ男女いきいき参画表彰」は今年度5回目となり、2団体の表彰が決定し、11月17日に表彰式を開催した。</p> <p>市主催では11月19日に市の管理職、他官公庁、民間企業の管理職を対象にワーク・ライフ・バランスをテーマに男女平等参画セミナーを開催し24名の参加を得た。</p>	<p>男女平等参画センター主催の講演会やセミナー、市主催の男女平等参画セミナーなどの啓発事業を実施する。</p> <p>「くしろ男女いきいき参画表彰」の推薦、選考、決定、表彰式を実施し、女性活躍の促進を図る。</p>
	こども育成課	<p>ア 子育て支援拠点センター事業(延利用数:24,425人)、利用者支援事業(3カ所実施)、食育事業(地産地消の日:地場食材の活用)に取り組んだ。</p> <p>イ 保育利用に係る多子世帯への配慮(第2子以降の3歳未満児の乳幼児に係る保育料の無償化:北海道による多子軽減策、345人)などに取り組んだ。</p> <p>ウ 地域子育て支援拠点事業・つどいの広場事業(延利用数:24,425人)、利用者支援事業(3カ所実施)、ファミリー・サポート・センター事業(会員数:1,204人)等に取り組んだ。</p> <p>エ 健診おたすけプラン(33世帯:38人)、ファミリー・サポート・センター事業(会員数:1,204人)、延長保育事業等の特別保育事業等に取り組んだ。</p> <p>オ ファミリー・サポート・センター事業(会員数:1,204人)、一時預かり事業、(延べ利用数:870人)子育て支援拠点センター事業(延利用数:24,425人)、利用者支援事業(3カ所実施)、健診おたすけプラン(33世帯:38人)などに取り組んだ。</p>	<p>ア 子育て支援拠点センター事業、利用者支援事業、食育事業(地産地消の日:地場食材の活用)を継続実施。</p> <p>イ 保育利用に係る多子世帯への配慮(第2子以降の3歳未満児の乳幼児に係る保育料の無償化:北海道による多子軽減策)の継続実施。</p> <p>ウ 地域子育て支援拠点事業・つどいの広場事業、利用者支援事業、ファミリー・サポート・センター事業などの事業の継続実施。</p> <p>エ ファミリー・サポート・センター事業、延長保育などの特別保育事業などの事業の継続実施。</p> <p>オ ファミリー・サポート・センター事業、一時預かり事業、子育て支援拠点センター事業、利用者支援事業などの事業の継続実施。</p>
	こども支援課	<p>子育て世帯への支援のため、一時的にお子さんを預かる子育て短期支援事業や子育てに不安があったり産後間もない母を支援する育児支援家庭訪問事業を行ったほか、乳児家庭全戸訪問事業を行い、養育不安・児童虐待がないか早期状況確認に努めた。</p> <p>また、DV被害者の避難や自立を支援するNPO法人へ支援を行ったほか、デートDV防止啓発リーフレットを作成し、中高生を含む若年層に啓発を行った。</p>	<p>今後も引き続き同事業を継続し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努めながら、子育て世帯やDV被害者への支援や市民への啓発を行う。</p>
	健康推進課	<p>保護者の育児不安の解消と正しい知識の普及を図ることにより、母子の健康が確保されるよう、下記の事業に取り組んだ。</p> <p>・妊婦健康診査(8,911人)</p> <p>・乳幼児健診 4ヵ月児健診(延878人) 9~10ヵ月児健診(実825人) 1歳6ヵ月児健診(延1,058人) 3歳児健診(延1,104人)</p> <p>・歯科健診 1歳6ヵ月児健診(実962人) 3歳児健診(実944人)</p> <p>・乳幼児・妊産婦訪問指導(延2,569人)の実施</p> <p>・育児相談(延781件)、事故防止啓発事業として情報提供及びパンフレットの配付を行った。また、R1年度から1会場を変更し(コア鳥取→西部子育て支援拠点センター)試行的に実施していたが、保護者からも好評であり、本格実施とした。</p> <p>・産後ケア事業(8組)</p> <p>・メンタルヘルスの向上を図り、安心と自信を持って育児に取り組めるよう妊産婦を対象に早期育児支援事業を実施した(産婦を対象としたもの838人)</p>	<p>・出生数の減少により、各乳幼児健診・相談者数も減少している。子どもの発育・発達を保護者と一緒に確認しつつ子育ての不安や悩みに対する支援を行えている。子育て世代包括支援センターの機能を活かして、よりきめ細やかな支援を行っている。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していた講座を2回中止したことで、昨年度と比較し実績が下回ったが、マタニティ講座が不安の解消に役立ったと答えた割合は99.1%と昨年度とほぼ同じ割合であった。今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を図りながら事業を継続し、子育てに必要な知識を提供し、不安の解消につなげていく。</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て短期支援事業</li> <li>・育児支援家庭訪問事業</li> <li>・思春期ライフデザイン事業【再掲】</li> <li>・男女平等参画推進事業【再掲】</li> <li>・子育て世帯支援事業</li> <li>・女性保護事業</li> <li>・住宅管理事業【再掲】</li> </ul>	健康推進課	<p>・R2年6月より、子育て世代包括支援センター事業を開始。妊娠から子育て期を安心して過ごせるよう、子育て支援拠点センターと健康推進課が連携し、切れ目のない支援を行った。妊娠・出産・子育てなどに関する情報提供や相談支援(支援プランの作成)の他、関係機関とのコーディネートを実施。</p> <p>・マタニティ講座を開催(受講者延109人)した。</p>	
	医療年金課	<p>子育て世帯の負担軽減を図ることで、安心して子育てできる環境につながるよう、乳幼児等医療費の助成について、市独自の更なる拡大について検討し、令和3年8月より小学生、中学生および高校生等の入院にかかる医療費自己負担分の無料化を実施することとした。</p>	<p>市独自の助成内容拡大として、令和3年8月より、小学生、中学生および高校生等の入院にかかる医療費自己負担分の無料化を実施する。</p>
	住宅課	<p>定期公募において、既存住宅の他に新築住棟から複数戸を提供したことから、6月公募にて5件、11月公募にて5件、合計10件の提供となった。</p>	<p>昨年度と同様に定期公募において、既存住宅の他に新築住棟から複数戸を提供する。</p>
	阿寒保健福祉課	<p><b>【市立幼稚園管理運営事業】</b> 阿寒本町地区及び阿寒湖温泉地区において、就学前の3歳から5歳までの幼児に対し教育・保育サービスを提供した。</p> <p><b>【阿寒町子ども交流広場事業】</b> 幼児や未就園児とその保護者が安心して子育て相談や遊びと交流が行えるよう指導員2名を配置し、感染症感染防止対策を行いながら地域の子育て支援の充実を図った。</p> <p><b>【阿寒湖温泉子供交流館事業】</b> 阿寒湖温泉地区において、指導員2名を配置し、感染症感染防止対策を行いながら未就園児とその保護者、幼稚園・小学生等の児童に安全で安心な遊びと交流の場を提供することができた。</p>	<p><b>【市立幼稚園管理運営事業】</b> 今後も、市立幼稚園の運営を継続し、利用者の生活実態やニーズを踏まえたサービス提供体制の確保を進める。</p> <p><b>【阿寒町子ども交流広場事業】</b> 阿寒幼稚園改修工事の進捗に合わせて事業実施場所を変更するなど柔軟な対応により利用児童の安心と安全を最優先に影響を最小限に留め、幼児や未就園児とその保護者が継続して利用できるよう実施体制を確保する。</p> <p><b>【阿寒湖温泉子供交流館事業】</b> 今後も引き続き運営体制を維持し、児童とその保護者が安全に安心して集い遊べる場の確保に努める。</p>
	音別保健福祉課	<p>児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした音別町放課後子ども広場運営事業について、継続的な取り組みを行っている。(利用者延べ人数 2,607人)。</p>	<p>放課後の子どもたちを健やかに育てることができるよう遊びの場を提供するとともに、日中留守家庭となる児童も安全に過ごせる適切な生活の場を確保することを目的として取り組む。</p>
	教育支援課	<p><b>【放課後子どもプラン事業】</b> 放課後等に興津小学校の利用可能教室を活用し、「放課後チャレンジ教室」を実施し、延べ3,043名が参加した。 子どもたちの居場所を確保するとともに、勉強やスポーツ、文化活動等、様々な活動を通して子どもたちの健全育成が図られた。</p> <p><b>【就学奨励事業】</b> 経済的理由(生活保護基準の1.2倍未満の収入等)によって、就学困難と認められる児童・生徒2,195人に対し、就学に必要な援助(学校給食費や修学旅行費など)を行った。</p> <p><b>【食育事業の推進】</b> 学校給食を通じた食育により、正しい食事のとり方や望ましい食習慣の定着及び食を通じた豊かな人間性の形成・家族関係づくりによる心身の健全育成を図ることを目的に、小学校、中学校で地元の食材を使用した給食を提供することで、ふるさと釧路のすばらしさを再認識してもらうため、ふるさと給食(10月から12月に月1回実施)を実施した。また、秋刀魚、柳葉魚、鱈、鰯など、地元でとれた魚類を活用した給食を提供した。</p>	<p><b>【放課後子どもプラン事業】</b> 放課後等に興津小学校の利用可能教室を活用し、子どもたちの居場所を確保するとともに、勉強やスポーツ、文化活動等、様々な活動を通して子どもたちの健全育成を図る「放課後チャレンジ教室」を実施する。</p> <p><b>【就学奨励事業】</b> 制度周知の充実を図り、援助の必要な児童生徒の保護者に対し、就学援助を引き続き適切に実施する。</p> <p><b>【食育事業の推進】</b> 食の大切さを学校給食を通じ児童生徒へ伝えるため、身近な地元食材を使用したふるさと給食の実施や地元でとれた魚類を活用した給食の提供をする。また、小学校・中学校の保護者を対象に行っている学校給食試食会について、令和2年度は新型コロナウイルスによる影響で申し込みがなかったが、事業は継続する。</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<p><b>③子どもの成長を支える環境づくり</b></p> <p><b>ア 子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境の充実</b>                      子どもが個性豊かに生きる力を身に付けられるよう、学力の向上や豊かな心・健やかな体の育成、信頼される学校づくり、学校の教育環境等の整備に努める。                      不登校など学校生活に適應できない児童生徒への学校生活への復帰を支援するため、関係機関と連携を図る。                      これからの高校づくりに関する指針を踏まえ、道立小規模高校の存続を含めた地域に根ざした学校づくりに努める。</p> <p><b>イ 児童の健全育成</b>                      遊びを通じた仲間関係の形成、児童の社会性の発達と規範意識の形成を図るため、児童が放課後や週末などに安全に過ごすことができる居場所づくりの推進を図る。                      また、家庭における経済的負担の軽減や健やかな成長を支援するための取り組みを行う。</p> <p><b>ウ 家庭や地域の教育力向上</b>                      子どもを地域社会全体で育てることを目的に、学校や家庭、地域連携の下、家庭や地域の教育力を総合的に高めることに努める。</p> <p>【主な事業】                      ・確かな学力向上推進事業                      ・学校適応対策推進事業                      ・不登校対策事業                      ・いじめ非行防止対策事業                      ・スクールソーシャルワーカー活用事業                      ・特別支援学級事業                      ・特別支援教育推進事業                      ・青少年補導活動事業                      ・奨学金貸付事業                      ・児童館 管理運営事業【再掲】                      ・放課後児童クラブ運営事業【再掲】                      ・阿寒湖温泉子供交流館事業【再掲】                      ・音別町放課後子ども広場運営事業【再掲】                      ・放課後子どもプラン事業【再掲】                      ・青少年健全育成事業                      ・青少年教育活動事業                      ・コミュニティ・スクール活用推進事業                      ・家庭教育支援事業                      ・地域人材育成推進事業                      ・子ども読書活動推進事業</p>	<p>こども育成課</p> <p>教育支援課</p>	<p>イ 児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操をゆたかにすることを目的とした児童館運営事業について、継続的な取り組みを行った(利用者数151,974人)。</p> <p>【確かな学力向上推進事業】                      児童生徒の基礎的な学習内容の定着や知識・技能の最大限の発揮に向け、釧路市標準学力検査の実施、釧路市学校改善プランの作成、放課後における学生ボランティア等を活用した補習の実施、北海道教育委員会配布問題(チャレンジテスト)の活用等を展開し、学力向上推進に取り組んだ。</p> <p>【学校適応対策推進事業】                      「学校適応指導教室(ふれあい教室)」を拠点に、様々な要因により学校生活に適應できなくなった児童生徒26名を対象に、個に応じた学習指導等を行った。</p> <p>【不登校対策事業】                      社会福祉法人等との連携による「ファースト・ステップ・プログラム」により、家庭からの第一歩を踏み出すことができない児童生徒29名に対し、家庭から施設への通所支援(延べ671回)や生活習慣等の確立に向けた活動プログラム(活動支援延べ1,118回、社会体験学習16回)を実施し、不登校状況の改善や家庭における教育力の向上を図った。</p> <p>【いじめ非行防止対策事業】                      スクールカウンセラーの配置(北海道派遣含む)や「いじめカットライン(電話・メールによる相談)」等による教育相談体制の充実、「Q-U(学校生活における満足度を測る心理テスト)」や「アセス(学校生活への適應感を捉える生活アンケート)」の実施による学校への支援等、いじめの未然防止と早期発見、早期解決に係る事業に取り組んだ。</p> <p>【スクールソーシャルワーカー活用事業】                      スクールソーシャルワーカーの配置により、児童生徒が置かれている様々な環境への働き掛けや、関係機関とのネットワークを活用した児童生徒への支援等を実施した。</p> <p>【特別支援学級事業・特別支援教育推進事業】                      教育支援委員会に係る面接検査や巡回相談等を実施し(巡回相談550件)、個々の児童生徒の発達の程度や適應の状況等を踏まえた在籍の決定を行った。</p> <p>【青少年補導活動事業】                      大型商業施設内や施設周辺の遊戯施設のほか、市内各地区の娯楽施設や学校周辺、公園、繁華街の街頭などを特別補導員や学校関係者、警察との連携を図りながら、子どもたちの規範意識の醸成など、非行防止に向けた巡視活動を実施した。(巡視活動実施回数589回、従事者延べ人数1,691人)</p> <p>【奨学金貸付事業】                      経済的理由により修学が困難な大学・大学院17人、専修学校4人、高校1人の応募者全員に対し奨学金を貸与した。(募集枠を超えた場合には、学業・人物・身体及び家計の状況等を検討し、総合的に判定して選考している。)</p> <p>【コミュニティ・スクール活用推進事業】                      導入校12校において、コミュニティ・スクールの充実・改善に関する取組を行い、9校でコミュニティ・スクール導入に向けた課題解決や運用方法等の調査研究を行った。</p>	<p>イ 前年度に引き続き、児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操をゆたかにすることを目的とした児童館運営事について、継続的な取り組みを行う。</p> <p>【確かな学力向上推進事業】                      児童生徒の基礎的な学習内容の定着や知識・技能の最大限の発揮に向け、GIGAスクール構想に基づく一人一台端末の活用と合わせ、これまでの教育実践の蓄積の上にICTを組み合わせる「ハイブリッド化」による取組を進め、協働的な学びと個別最適化した学びの充実を図る。</p> <p>【学校適応対策推進事業】                      様々な要因により学校生活に適應できなくなった児童生徒を対象に、学習指導等の個に応じた指導を行い、集団生活への適應を促すため、「学校適応指導教室(ふれあい教室)」を設置し、学校適応指導員の配置により原籍校復帰等への支援を図る。</p> <p>【不登校対策事業】                      関係機関との連携により、「ファースト・ステップ・プログラム」をはじめとした各種事業により、不登校児童生徒及び保護者への支援を実施する。</p> <p>【いじめ非行防止対策事業】                      「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進する。</p> <p>【スクールソーシャルワーカー活用事業】                      不登校等の児童生徒を取り巻く複雑な環境への働き掛け等を行うため、教育分野の知識に加えて社会福祉等の専門的な知識や経験を持つスクールソーシャルワーカーを継続的に配置し、教育相談体制の充実を図る。</p> <p>【特別支援学級事業・特別支援教育推進事業】                      教育支援委員会の定例委員会を開催し、各専門部会による調査、検査、判定の実施により、個々の児童生徒の状況把握や対応等に取り組むなど、特別支援教育の充実を図る。</p> <p>【青少年補導活動事業】                      特別補導員や学校関係者、警察との連携を図りながら、市内各地区の娯楽施設や学校周辺、公園、繁華街の街頭などにおいて巡視活動を実施する。</p> <p>【奨学金貸付事業】                      経済的に厳しい状況にある学生等が能力があるにも関わらず進学を断念することがないように、引き続き奨学金制度について積極的に情報提供を行い修学支援を実施する。</p> <p>【コミュニティ・スクール活用推進事業】                      学校・家庭・地域が連携した「地域とともにある学校づくり」を進めるため、導入校15校において、コミュニティ・スクールの充実・改善に関する取組を行うとともに、12校で導入に向けた課題解決や運用方法等の調査研究を行う。</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
	教育支援課	<p>【家庭教育支援事業】 新型コロナウイルス感染症の影響により家庭教育講座が開催できなかったが、新入学児童保護者説明会等の機会を利用し、望ましい生活習慣啓発リーフレットを配布するなど、保護者等が家庭教育について学ぶ機会を提供し、家庭教育の充実が図られた。</p> <p>【地域人材育成推進事業】 コミュニティ・スクールの活動を基盤とし、学校支援ボランティア等(登録者数620人)の活動を推進するために、地域学校協働活動推進員等(12名)を中心として、他の事業と連動しながら、学校・家庭・地域の協働による教育支援活動に取り組んだ。</p>	<p>【家庭教育支援事業】 家庭教育講座の開催や新入学児童保護者説明会の機会を利用し、保護者が家庭教育について改めて学ぶ機会を提供し、家庭教育の充実を図る。</p> <p>【地域人材育成推進事業】 コミュニティ・スクールの活動を基盤とし、学校支援ボランティア等の活動を推進するために、地域学校協働活動推進員等を中心として、他の事業と連動しながら、学校・家庭・地域の協働による教育支援活動に取り組む。</p>
	生涯学習課	<p>子ども読書活動推進事業 新型コロナウイルス感染症の影響により、回数等減少したものの、学校団体貸出冊数19,952冊、出前講座3回、ブックトーク3回、ブックフェスティバル4回(3校)を実施した。 また、国語の副教材を中心に選定した読書活動サポートセット約500冊4セットを、市内小学校12校へ貸出しをした。</p>	<p>学校や育児サークル等への支援と学校ブックフェスティバル及び読書活動サポートセットの貸出しを引き続き行うとともに、子ども読書活動推進計画に基づく事業を実施する。</p>
	阿寒保健福祉課	<p>【阿寒湖温泉子供交流館事業】 児童館や放課後児童クラブのない阿寒湖温泉地区において、指導員2名を配置し、感染症感染防止対策を行いながら放課後や週末などに児童が安全に安心して遊べる場を提供することができた。</p>	<p>【阿寒湖温泉子供交流館事業】 今後も引き続き運営体制を維持し、放課後や週末などに児童が安全に安心して遊べる場の確保に努める。</p>
	音別保健福祉課	<p>児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした音別町放課後子ども広場運営事業について、継続的な取り組みを行っている。(利用者延べ人数 2,607人)。</p>	<p>放課後の子どもたちを健やかに育てることができるよう遊びの場を提供するとともに、日中留守家庭となる児童も安全に過ごせる適切な生活の場を確保することを目的として取り組む。</p>
<b>④医療・保健サービスの充実</b>			
<p><b>ア 医療体制の整備</b> 将来の医療需要を見据えた医療施設の整備を行い、広域的な医療体制を構築するとともに、関係機関との連携を図り、地域に密着した医療の充実に向けた取り組みを実施する。</p> <p><b>イ 働く世代の健康を支える環境整備</b> 予防可能な疾患による早世や障がい減らすため、若い世代から健康づくりに取り組めるよう健診体制の整備や、仕事で忙しい働く世代が気軽に生活習慣改善に取り組める環境を整備する。</p> <p>【主な事業】 ・訪問看護ステーション運営事業 ・夜間急病センター運営事業 ・在宅当番医制運営事業 ・広域救急医療対策事業 ・小児救急医療支援事業 ・休日緊急歯科診療所運営事業 ・阿寒湖畔歯科診療所運営事業 ・医療機械等整備事業 ・生活習慣病予防推進事業 ・健康ポイント事業 ・がん検診推進事業 ・健康教育事業【再掲】</p>	健康推進課	<p>地域の医療機関と連携を図りながら、365日の医療体制の確保とともに休日夜間の急病に対応できる救急医療体制の維持に努めた。 ・若い世代(18~39歳)の生活習慣病を予防するため若者健診を実施するとともに、その健診結果を基に保健指導を実施(受診者数540人)</p>	<p>地域の医療機関と連携を図りながら、365日の医療体制の確保とともに休日夜間の急病に対応できる救急医療体制の維持に努める。 ・昨年度は、新型コロナ感染症の影響により個別健診が実施できなかった時期があったが、集団健診での受診数を一定程度獲得できたことで、前年度実績とほぼ同じ受診者数であった。今年度も新型コロナ感染症の感染拡大防止策を図りながら事業を継続していく。</p>
	阿寒保健福祉課	<p>地区人口が少なく、歯科診療所の経営にとって不採算地域である阿寒湖温泉地区の歯科診療所の運営を補助することで、地区住民、従業者および観光客の歯科医療を確保している。 ・機器整備 パノラマレントゲン(リース)、歯科技工用成型機(購入)、コンプレッサー分解修理(令和3年度に実施予定) ・受診延べ数 令和元年度2191件、令和2年度1971件 ・令和2年度下半期の受診数が、917件(対前年比79.5%)と落ち込んできている。新型コロナウイルス感染症による観光客入込減により地区の観光業従事者が減少したためと考えられる。</p>	<p>機器整備(パノラマレントゲン リース)を継続する他に、必要に応じ以下を加えることで、より地域に密着した歯科診療所運営とする。 ・在宅療養者への訪問歯科診療 ・包括支援センターが実施する地域ケア会議への参加 ・健康教室での講話</p>
	市立病院医療管理課	<p>前年度に引き続き、医療機械の整備を進めている。 【医療機械の整備】 ○医療情報システム ○全身用MRI装置 ○CT撮影装置 ※市立釧路総合病院 病床数643床、職員定員829人、診療科31科</p>	<p>病院増改築については、新棟建設等基本設計に着手する。 医療機械等整備については、前年度に引き続き、必要な機器の整備を進める。 【医療機械の整備】 ○アフターローディングシステム ○超音波ジェットウォッシャー ○手術顕微鏡</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
【基本目標4】持続可能なまちをつくる			
<b>① コンパクト・プラス・ネットワークの推進</b>			
<p><b>ア コンパクトなまちづくりの推進</b> 都市機能が集積し、一定の人口密度が保たれた暮らしやすいまちとするため、コンパクトなまちづくりに資する誘導施策の展開等を図る。</p> <p><b>イ まちなか居住の推進</b> 生活利便施設の整備や都心居住を促進することにより、便利で快適に暮らせる生活環境の向上を図る。</p> <p><b>ウ 公共交通の維持確保と再構築</b> バス路線や乗合タクシーなどへの必要な運行支援を行い、「生活の足」を確保するとともに、住民が地域で安心して住み続けていくことができるよう、公共交通ネットワークの維持確保と再構築を図る。</p> <p><b>エ 公有資産マネジメントの推進</b> 総合的、長期的な視点から経費と市民サービスの最適化を図りながら、市が保有する公共施設等全体の適正な管理と有効な活用を推進する。</p> <p><b>オ 空家等対策の推進</b> 「空家等対策計画」に基づき、空家等の適切な管理と様々な用途への活用を促進する。</p> <p><b>カ 地域のつながりを生かした安全・安心なまちづくり</b> 地域コミュニティ活動や地域防災活動など日常的な活動の中からのつながりや信頼関係を築くことで、災害に強い地域社会・地域経済の実現を目指し、自立的な発展と信頼でつながる地域社会の構築に取り組む。</p> <p><b>キ 都心部まちづくりの推進</b> ひがし北海道の中核都市として、釧路駅周辺を含む都心部の機能強化、観光ポテンシャル等の発揮、商業機能の活性化等に取り組み、公民連携による都心部まちづくりを推進する。 また、防災・減災のための機能を確保し、災害に強いまちづくりを推進する。</p> <p>【主な事業】 ・立地適正化推進事業 ・音別地域拠点整備事業 ・公共交通活性化事業 ・釧路駅周辺整備推進事業 ・公共施設等適正化事業 ・空家等対策事業 ・住民運動推進事業 ・災害対策事業 ・地域福祉推進事業 ・防災教育推進事業</p>	防災危機管理課	<p>【防災に関する各種講座及び防災訓練の実施】 ・講師派遣 5回 ・防災訓練 3回</p> <p>【防災行政無線(移動系:IP無線)の運用】 ・150台配置(釧105、阿29、音16)</p> <p>【災害用備蓄資機材の整備】 ・期限切れの備蓄食料は、入れ替えを行い、防災計画に沿った食料を配置。</p>	<p>・防災に関する各種講座及び防災訓練の実施 ・防災行政無線(移動系:IP無線)の運用 ・災害用備蓄資機材の整備</p>
	都市経営課	釧路市地域公共交通活性化協議会での検討を経た上、令和元年9月に策定した地域公共交通再編実施計画に基づき、令和2年10月からのバス路線再編(ステップ2)及びバス待合環境の整備を行った。	今後も引き続き、地域公共交通再編実施計画に基づき、ステップ3の実現に向けた準備を進める。
	市有財産対策室	<p>○公共施設の複合化 「公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設を集約・複合化した釧路市共栄ふれあいセンターの整備や西消防署及び第9分団を集約した施設の整備を行った。</p> <p>大楽毛地区における公共施設を集約・複合化について、関係各課と検討した。</p>	<p>○公共施設の複合化 大楽毛地区における公共施設を集約化・複合化について、検討を継続する。</p> <p>○公共施設等総合管理計画の改訂 R3年度末までに公共施設等総合管理計画の改訂を行う。</p>
	市民生活課	生活交通バス路線を維持・確保するため、赤字路線に対して国・道・市が役割に応じて補助することで地域住民の足を確保した。	今後も赤字路線に対して、バス事業者と協議を重ね、地域住民の足を確保するため、補助を続けていく。
	地域福祉課	<p>○避難行動要支援者支援事業 ・避難行動要支援者名簿の更新を行った。また、各種会議や研修会において、避難行動要支援者避難支援事業の説明を行い、事業参加町内会の拡大に努めた結果、新たに2町内会の参加協力を得た。(16町内会参加) 尚、避難行動要支援者名簿掲載者への個別実態調査については、新型コロナウイルス感染症拡大防止等の観点から、R2年度については未実施とした。</p> <p>○釧路市地域安心ネットワーク事業 ・庁内関係課と見守り協力事業者(13業種126事業所)による見守り活動においては、協力事業者から12件の通報があり、安否確認等の早期対応に繋がった。</p>	<p>○避難行動要支援者支援事業 ・避難行動要支援者に対する避難支援の必要性・重要性についての理解・認識が深まるよう、町内会や各種会議へ出向いて説明を行い、事業参加町内会等の拡大に努めるとともに、地域の要支援者への日頃の見守り意識の向上を図っていく。</p> <p>○釧路市地域安心ネットワーク事業 ・庁内関係課と見守り事業者による連絡会議を開催し、見守り活動の重要性について理解深化を図り、地域における見守り体制の充実・強化を進める。</p>
	都心部まちづくり推進室	都心部まちづくりの推進のため、鉄道高架化を基本に、都心部の賑わいの創出や、跨線橋の老朽化への対応、防災・減災など社会基盤整備の方向性を示す「釧路都心部まちづくり計画」を策定した。	「釧路都心部まちづくり計画」の早期実現に向け、市民理解を深めるための説明会を開催するほか、国など関係機関との協議を進めるための各種調査を実施する。
	都市計画課	居住誘導区域の人口密度を一定以上に保つ取組みとして、平成30年度に改訂した立地適正化計画に基づき、都市機能誘導区域内の対象の誘導施設に対し補助金の交付を行った。	今後も引き続き、立地適正化計画に基づき、都市機能誘導区域内の対象の誘導施設に対し補助金の交付を行う。
	建築指導課	<p>釧路市空家等対策計画に基づき、空家等対策を推進している。</p> <p>・老朽化が著しい空き家の除却を促進するために、不良空家除却補助制度により除却費の補助を継続。17件の補助を実施した。</p> <p>・特定空家等の所有者等への指導・助言を行い、8件改善された。</p>	釧路市空家等対策計画に基づき、空家等の実態調査、空屋等の所有者への通知、特定空家所有者等への指導・助言を行うとともに、老朽化が著しい不良空家等の除却を促進するための不良空家等除却補助制度を活用しながら、引き続き、空家等対策を推進していきます。
	音別地域振興課	整備を予定している拠点施設の実施設設計を行うとともに、音別地域の拠点施設として必要な機能について、検討を行った。	拠点施設の建設工事を行うとともに、管理運営体制など施設運営に必要な詳細を決定し、R4年度の供用開始に向け準備を進める。
	教育支援課	<p>【防災教育推進事業】 子どもたちが、地震や津波等の自然災害に対する理解を深め、状況に適切に対応し、自らの命を守ることができるよう、4校において関係機関の連携の下、防災教育を実施した。</p>	<p>【防災教育推進事業】 子どもたちが、地震や津波等の自然災害に対する理解を深め、状況に適切に対応し、自らの命を守ることができるよう、各学校において関係機関の連携の下、防災教育を実施する。</p>

基本目標と基本的方向、具体的な施策	所管部署	進捗報告	
		R2年度(実績)	R3年度(取組予定)
<p><b>②ひがし北海道の中核都市としての拠点性の向上</b></p> <p><b>ア 物流拠点機能の充実</b> 港湾・空港機能や高速交通ネットワーク等の向上により、地域の産業活動を支える物流拠点機能の充実を図る。</p> <p><b>イ 医療体制の整備(再掲)</b> 将来の医療需要を見据えた医療施設の整備を行い、広域的な医療体制を構築するとともに、関係機関との連携を図り、地域に密着した医療の充実に向けた取り組みを実施する。</p> <p><b>ウ まちづくりにおける地域連携の推進</b> 定住自立圏域の活性化に向けた取り組みを推進し、定住促進のための機能の充実や地域の魅力の向上を図ることにより、安心して暮らし続けることのできる地域を築き、圏域からの人口流出を食い止める。 また、異なる地域と地域が連携して新たな稼ぐ力やひとの流れを生み出すため、都道府県を超えた広域的な連携による様々な事業展開を図る。</p> <p><b>【主な事業】</b> ・道東道利用促進事業【再掲】 ・ひがし北海道空港連携誘致事業【再掲】 ・空港拡張整備促進事業【再掲】 ・釧路空港国際化推進事業【再掲】 ・港湾開発整備促進事業【再掲】 ・港湾計画推進事業【再掲】 ・訪問看護ステーション運営事業【再掲】 ・夜間急病センター運営事業【再掲】 ・在宅当番医制運営事業【再掲】 ・広域救急医療対策事業【再掲】 ・小児救急医療支援事業【再掲】 ・休日緊急歯科診療所運営事業【再掲】 ・阿寒湖畔歯科診療所運営事業【再掲】 ・医療機械等整備事業【再掲】 ・高等看護学院施設管理事業【再掲】 ・定住自立圏構想等推進事業 ・国内観光客誘致事業【再掲】</p>	都市経営課	定住自立圏による広域連携については、釧路定住自立圏共生ビジョンに基づき、初期救急医療体制の確保や消費生活相談等に関する連携など、各種連携した取り組みを行い、安心して暮らし続けられる圏域形成を推進した。また、定住自立圏共生ビジョン懇談会及び首長意見交換会を開催し、ビジョンの見直しや定住自立圏の在り方などについての検討を行った。	定住自立圏による広域連携については、圏域住民が安心して暮らし続けられる圏域形成の推進に向け、圏域町村との役割分担により、釧路定住自立圏共生ビジョンにおける取り組みを引き続き進めていく。併せて、今後も、定住自立圏共生ビジョン懇談会及び首長意見交換会を実施する。
	健康推進課	地域の医療機関と連携を図りながら、365日の医療体制の確保とともに休日夜間の急病に対応できる救急医療体制の維持に努めた。	地域の医療機関と連携を図りながら、365日の医療体制の確保とともに休日夜間の急病に対応できる救急医療体制の維持に努める。
	観光推進室	<p>■管内8市町村の官民で構成する「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」において、新型コロナウイルスの影響により、スタンプラリー等のキャンペーンから、くしろ地域の魅力を発信するPR動画制作などのプロモーション事業に変更し、実施。</p> <p>■新型コロナウイルス感染拡大の影響により低迷した観光需要・航空需要を喚起するため、釧路空港に就航する各航空会社を始めとした関係機関と連携し、WEBサイトを通じて、釧路地域・ひがし北海道地域の魅力を紹介するページを制作するなど、釧路線利用促進等のPR活動を実施。国外向けには、コロナ収束後の需要を見据え、タイ・マレーシア・台湾へ向けて、道内在住モデルによるSNSやブログ等の情報発信事業を実施。</p> <p>・JAL・ANA・AIRDO・PEACHそれぞれと連携しキャンペーンの展開と情報発信事業を実施。</p> <p>・タイ・マレーシア・台湾へ向けた情報発信事業を実施。</p> <p>・釧路空港の利用促進と路線維持、拡充に向けた航空会社への要請活動を実施。</p>	<p>■前年度に引き続き、「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信キャンペーン市町村実行委員会」として、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、くしろ地域の魅力を発信するキャンペーンを実施。</p> <p>■前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により低迷した観光需要・航空需要を喚起するため、釧路空港に就航する各航空会社を始めとした関係機関と連携し、釧路地域・ひがし北海道地域の魅力PR活動を実施予定。国外向けには、コロナ終息後の需要を見据え、台湾など東アジア地域へ向けた情報発信事業を実施予定。</p> <p>・JAL・ANA・AIRDO・PEACHそれぞれと連携し季節便を含む釧路線利用促進事業を実施予定。</p> <p>・台湾など東アジア地域へ向けた情報発信事業を実施予定。</p> <p>・釧路空港の利用促進と、路線維持、拡充に向けた航空会社への要請活動を実施予定。</p>
	港湾空港課	<p><b>【港湾開発整備促進事業】</b> (フェリー誘致) ・第6回釧路港フェリー誘致特別対策専門部会を3月22日に開催し、内航フェリー誘致に係る課題解決の方策等について意見交換を行った。</p> <p><b>【港湾計画推進事業】</b> ・市内の関係企業にヒアリング等を実施しながら、平成23年に策定した釧路港国際バルク戦略港湾の選定に向けた計画書の検証を行った ・中央埠頭再編に関する検討を進めて、対象とする船舶を決めた ・釧路港特定貨物輸入拠点港湾利用推進協議会(第3回)を開催し、会員に対して港湾管理者や特定埠頭運営者から報告を行った</p>	<p><b>【港湾開発整備促進事業】</b> (フェリー誘致) ・釧路港フェリー誘致特別対策専門部会を継続して開催し、関係行政機関や港湾業界関係者等とフェリー就航の可能性について検討を行う。 ・船社訪問や荷主となる業界関係者と意見交換を行い、業界の現状やニーズ等、フェリー誘致に向けた情報収集を行う。</p> <p><b>【港湾計画推進事業】</b> ・中央埠頭再編に伴う施設整備の検討を行う予定</p>
	阿寒保健福祉課	<p>地区人口が少なく、歯科診療所の経営にとって不採算地域である阿寒湖温泉地区の歯科診療所の運営を補助することで、地区住民、従業者および観光客の歯科医療を確保している。</p> <p>・機器整備 パノラマレントゲン(リース)、歯科技工用成型機(購入)、コンプレッサー分解修理(令和3年度に実施予定) ・受診延べ数 令和元年度2191件、令和2年度1971件 ・令和2年度下半期の受診数が、917件(対前年比79.5%)と落ち込んできている。新型コロナウイルス感染症による観光客入込減により地区の観光業従事者が減少したためと考えられる。</p>	<p>機器整備(パノラマレントゲン リース)を継続する他に、必要に応じて以下を加えることで、より地域に密着した歯科診療所運営とする。</p> <p>・在宅療養者への訪問歯科診療 ・包括支援センターが実施する地域ケア会議への参加 ・健康教室での講話</p>
	市立病院医療管理課	<p>前年度に引き続き、医療機械の整備を進めている。</p> <p><b>【医療機械の整備】</b> ○医療情報システム ○全身用MRI装置 ○CT撮影装置 ※市立釧路総合病院 病床数643床、職員定員829人、診療科31科</p>	<p>病院増改築については、新棟建設等基本設計に着手する。 医療機械等整備については、前年度に引き続き、必要な機器の整備を進める。</p> <p><b>【医療機械の整備】</b> ○アフターローディングシステム ○超音波ジェットウォッシャー ○手術顕微鏡</p>
	高等看護学院	<p>臨床判断能力に必要な基礎的能力を養うことが出来るよう、学習環境を整備し、学修の効率向上を図った。 ※ 入学生 32人、卒業生 28人、卒業生のうち市内就職(看護職) 26人</p>	<p>教材や備品を計画的に更新し、学習環境を整備することで学内での実技演習や体験学習を充実させ現場におけるニーズの変化への即応を図る。</p>